グリムのむすめたち

presented by

Glimm's **ro** Children

成年コミック

MOOG COMICS



contents




ギシ・・・
さぁ出ておいで
かわいい子山羊ちゃん
ギシ・・・
ママが帰って
きまちたよー
ほらほらどうしたの？
言うこと聞かないと
お仕置きでちゅよー
ガタ
ガタ
いいから早く…
ガタ
ガタ
出てこいっつってんだろクソガキィッ！
おっと…悪いな
怖がらせ
ちまったか？
きゃあああっ
グイッ
ヤメッ
いやいや
実の所お前には
感謝してるんだぜ？
お前のおかげで
家に入れたし
お前のおかげで
子山羊を7匹も喰える
おおかみと七匹の仔山羊


きっと何かで染めてきたんだと思いますけど
小麦粉…とか…
だから絶対開けちゃダメなのわかった？
むーっ お姉ちゃん達もしお母さんだったら可哀想だと思わないのっ
ガッ
それに私もうおなかぺこぺこだもんっ
あっ おい バカッ
ギイイ
イイイ…
きゃあああッ…… …ッ



…い
おいッ
おいおら
何ボケーッと
してんだよ？
今の話
聞いてたか？
…え…？
だからよぉ
お前には感謝
してるしよぉ
一回ぐらい
チャンスをやろうと
思ってなぁ
グに♥
今から
たっぷり犯し尽くす
これは
どう足掻いても
変わんねぇけど
ひっ…
キュッ
ガタ
ビクッ
グに♥
もしも俺が
満足するまでお前が
正気を保てたら
ガタ
…そうだな
お前もお前の姉妹も
食うのだけは
勘弁してやるよ
どうだ？
助かりたいだろ？
助けたいだろ？
なぁあ？




ブシャ
ピュッ
あっ…っ ああっ…
ビクッ
ビクンッ
んっ いっ あああっ
ふぅっ… そうそう それでいいんだよ
素直に感じとけ
うっ… あ…っ
とろっ
さて大分こなれてきたと思うが…
お前は随分ちいせぇからなぁ…
ひく ひく
もう少し慣らしてやるよ
すぐに壊れちまったら面白くねぇしな
フル フル
あっ や…っ
くちゅ
はぁあ… しかしよぉ…
んんっ…
ちゅ
ぐっ
お前ら子山羊はマジで柔らかくて… たまんねぇよなぁ…
ちゅぽ
んあっ
ギュッ


ぐちゅ
たまんねぇ
肉感しててよぉ…
なんでこんな
美味そうなんだ…
ジュル
どっかで喰った
ババアとは段違いに
そそるぜぇ…
ポタ
ポタ
やっぱり
チャンスなんて
やらなきゃ
よかったかぁ…
いや…ダメ…
まだ…
ゾク
えっ…
えっ…？
ぐちゅ
ガバッ
あぁあ…ダメだ
我慢できねぇッ
いっ…
いやっ…
ブル
まっ
待ってっ…
いっ…
もういいか
喰っちまえばッ
ブル
ビクッ
いやぁぁあぁあ
あああッ
ガブッ
ビクッ
ビク
ああああ
ああッ
ビクッ




あぁあぁぁ…
うううう…っ
アアッ
おほーっ
あったけぇーっ
やれば出来るじゃ
ねぇか
プッシャ
ジョロロッ
そうそう全体に
かける様にな
しっかし随分出るな
溜まってたんか?
ズルルッ
ビチャッ
ジョロロロッ
ううう…
やだぁ…
ブルルッ
ヌラァ
ビチャ
まぁこれでも
かなり痛いと思うが
こっからが本番だぜ
お姉ちゃん達を
助けたかったら
気合入れろよぉ?
ふーこれで
準備万端だな
えっえっ
何をするのっ
ぐちゅ
いっ 痛いって?







ビクッ
狼種汁受け取れオラァッ
ビクッ
ああぁぁあぁッ やぁぁあぁッ
あッ あづいッ
ドクッ
ドクッ
とりあえず一発は耐え切ったみてえだな？
まぁまだまだお楽しみはこれからだ
ふぅーっ 出る出るっ やっぱ子山羊のまんこは最高だぜ
お腹ッ 焼けぢゃッ
お前のまんこと子宮が壊れても
ビクッ
ビクッ
助け出して見せろよ？





ビクッ
んあああああッ
あっ あぁあッ!?
ああッ
あぁあッ!?
ビクッ
プシュ
どうだ?
ぐちゃぐちゃに
犯された後の
クリトリスは
効くだろ?
ビクッ
ビクンッ
ブシャッ
ほら快楽に
身を任せてみろっ
そしたら
お前が必死こいて
助けたいと思ってる
奴らなんて
どうでも良く
なっちまうからよッ
いッ
いぎぃッ
あッ
ひぃッ
ガクッ
ギュッ
おら
イッちまえッ!
あッ
パッ


ビクンッ
ビクンッ
んああぁああっ
んひああ
ああああぁッ
ビクンッ
ビクッ
ガクッ
ビュッ
ガスッ
ガスッ
ブシャッ
ビュプシャッ
ビチャッ
ビチャッ
ああああぁッ
くううッうッ
ガクッ
ビクッ
あっ
おッ
ビクンッ
んっ
ひっ
ビクッ
はぁ
あ…ぁ…
よかっ…た…
お姉ちゃん…
わたし…がんばった…よ…
はぁ
おお…まだ
意識があんのか…?
お前すげえな
ここまで耐えられちゃ
流石にオシマイだなぁ
げほっ
ガクッ
…お…
おじまい…?
おわり…?
っはぁっ
ビクッ
ビクッ



んじゃもう一発
中に出してから
まんこは
終わりにして
次は尻の穴で
楽しませて
もらうかな
…え？
お尻の穴…？
キュン
ま…まだ…
おわりじゃないの…？
キュン
ドッ
今までのを…
もう一回…？
ドッ
今度はお尻で…
え…？
ゴプッ
ドロッ
また何時間も
これを入れられて…
ズッ
何度も何度も
吐きそうになって…
ズブッ
そ…そんなの…
も…もう…
そんなの…
…む…
むり…ッ
ぐるんッ♥



んいぐッ
いぐっ いぐいぐッ
んぐうううッ
あぉおおッ
んぉおおおッ
あっ
ああぁッ
んッ
んッ



んっおおっおおっ♥
あーあー 折角がんばってたのに落ちちまったかぁ
いっぐっんッ♥
いいのかぁ？お姉ちゃん達もお前も喰っちまうぞ？
ひっあっあぁっ♥
ガクッ
ヌッ
んっあへっ♥
まぁ所詮雌山羊が狼に勝てるわけねぇのさ
んじゃ遠慮なく頂くとするかね
あっおッ♥
ぐふふっもう聞こえてねえみてえだなぁ
もう腹も金玉もすっからかん
ぶべぇッ!?
バキッ


ザッ
まったくどこから迷い込んだのかしら?
やたらとお腹が大きな狼さんねぇ
なっ なんだ おまっ
あらあら口の利き方には気をつけた方がいいわよ?
ガッ
丁度悩んでた所なのよ…今晩のおかずにね
いッ…ラッ…
ビクッ
コキ
コキ
さてさて…
うちの娘達が随分お世話になったみたいだけど…
その豚みたいに肥えたお腹の中に焼き石でも詰めて料理されるのと…
ビクッ
私のお願いを聞いて泣いて許しを請うのと…
グッ
ゾクッ
どっちがいいのかしら?





狼と七匹の仔山羊●おわり

グリムのむすめたち



グリムのむすめたち


不思議の国のアリス
PRESENTED BY
ro
ザァ
あーあ…
つっまんないのー
ワァ
ザァ
なんで本を読みにわざわざ外に出んの?
あらアリス 自分の本もう読み終わったの? じゃあお姉ちゃんの貸してあげよっか?
イヤすぎ お姉ちゃんが持ってきたの エッチな本ばっかじゃん
サァ
サァ
あー… 早く帰りたい
ザァ
私そういうの興味無いしー…
ガサ
ガサ


ガ
やばいやばいッ遅刻しちゃうよーっ
ていうか完全遅刻だこれッ
サッ
女王様に怒られるーッ
ピュー
ん…？どうしたのアリス？
…お姉ちゃん…
…ちょっと…おしっこ行ってくる
…花を摘みにって言いなさい
ぐぬぬぬ…んぐぐぐ…っ
ブル
ブル
ブル
ブル
ブル


もぉぉっ 全然抜けないいっ どうなってんのこれっ
ググ
ググ
どうして急に身体が大きくなったのっ
んぐうぅ そもそもここはどこなわけっ
なんでウサギの穴に落ちたら家の中にいんの
…キミ 早くどいてくれない？
そっその声っ あのウサギでしょっ どういう事か説明してッ
説明って何を説明するのさ
何って… 身体が大きくなった理由とか…
バタバタ
ここはどことか あんたはなんで喋れるのかとか とにかく全部っ
いやだよ 時間ないもん
むかつくッ
でも身体が大きくなったのは キミが勝手にテーブルのジュース飲んだからだよ


パァァァ
とにかく元に戻すから早くどいてね
え？戻せるの？それを早く言ってよ
ズ
ほんとは女王様用なんだけどしょうがない
自由に大きさ変わるのこれだけだし
ン
クッ
ビクッ
ちょっちょっと何やってんのッ？ていうかなんでパンツ下ろしてんのッ
バタバタ
元に戻すには身体の中の水分を出さなきゃダメなんだ
女の子ならこれが手っ取り早いでしょ
アセアセ
は？それって…
んいいいッ
ググ
ビク
ズブッ




なにわけっ
わかんない事
言ってんのッ
キュン
あっちょっ
ほんとっだっ
あぁあっでっ
ビクン
キューン
でるでるッ
でちゃッ
ビクン
ああぁあぁあッ
んやあぁあッ
ビチャッ
ビクン
ビクン
ぷしゃっ
んひいいっ
んんんっくうっ
ぷしゃあああ
ビクン
ザバァッ
おわあ
あぁッ
んぶッ
ズチュ


ザバーッ
ぶはっちょっキミッ ストップストップ! 出しすぎだって!
家が 大変な事に なってるよッ
ビクッ
ビクン
ビクン
ビクン
あっうぅっ だっ…だったら 先にそっちを 止めてってばッ
んぁあッ まだ出るううッ ぁあぁッ
ジャー
ポフッ
あひゃッ!?
ベキ…
メリ…
バキ…
ドバァッ
きゃキミの膀胱 ぶっ壊れすぎ でしょおおおッ
我慢してたんだから しょーがないでしょッ
……ッ
ん…
ドドドド


グイ
グイ
…う…うーん… ……ん…?
ピク
なっ何してんのッ あんたたちッ
何ってキミの服を貰うんだよ
僕たち君のせいでびしょびしょだからね
私のせい?
グイ
ちょっ離してッ さわんないでッ
ジタ
バタ
そうだよ 津波のようなキミのおしっこで
ポタ
自慢の羽が台無しだよ
ポタ
だから代わりにキミの服を貰うんだ 分かった?
ズイ
絶対にイヤッ 裸になっちゃうじゃんッ
わがまま過ぎてびっくり じゃあせめて乾かす運動に付き合ってよ
…は?運動? まぁそれくらいなら…


ってやっぱり良くないぃッ
抜いてッ抜いてよッ
何が運動なのっ
こんなの違うッ
ズブッ
ダメダメ
もうわがままは
聞いてあげないよっ
みんなの
羽が乾くまで
付き合って
もらうからね
ビクッ
ズブッ
ビクッ
うぅっもう
ここに来てから
こんなんばっかっ
えっちなの嫌い
なのにっ
うそうそ
じゃあどうして
そんなに
ズレ
ビクッ
あっう…
んッ
ズレ
気持ち
良さそうにして
るんだいっ
ビクッ
グスッ
バチュンッ
んひゃあっ
ビクッ
ビクッ


んひっあぁあっ
そんなことッなっ
あぁッ
気持ち良くっ
なんかっないいッ
だったらどうして
顔隠すのかな?
うっぅ
ほらほら
もっと動かないと
乾かないよっ
んっぶっ
んんんっ
おぉっそうそう
いいよぉッ
もうイキそうだッ
んふぅうっ
んぅっうっ
んぶっ
んんっ
んぶうっ!?


ビクンッ
ビクンッ
んっんくッ
んくぅうウッ
ガクン
プシュッ
んぶぅうウッ
んんうぅうウッ
うううッ
ブビュッ
ビュブッ
ガクン
あーあ
また濡らして
くれちゃって
今度こそ
パンツ貰うね
じゃあ次は
俺の番ね
また羽が
濡れたっ
靴下欲しかったん
だよねぇっ
んひいっ
んおっ
ビクン
ビュブッ
ビチャッ
ビュッ
ビュッ
ビクン


うう…酷い目にあった…
気がついたら誰もいないし…
フラ…
フラ…
結局服全部持ってかれてるし…
股めっちゃひりひりするし…
ガク
ガク
しかもまた訳わかんないとこに来ちゃった…
ギャー
ギャー
今度は何？森？
穴の中に家と空と森って意味不明すぎ…
別にもう驚かないけど…
きゃああッ何っ何ッばっばけものっ
ふんふんキミがウサギが言ってたやつにゃ？
ザッ
ザ
言ったそばから驚かさないでッ


ごめんにゃ
でもわざわざ
そんな格好してるのは
誘ってるって事にゃ？
フリ
フリ
こっ これは
アホ鳥達のせいで…
ていうか
女王様って誰⁉
何の話⁉
モゾ
モゾ
女王様の所に
連れてく前に
一回交尾するにゃ？
それに
交尾なんて
冗談じゃっ
っもがっ
ム
ギュ
あーもうっ
結局こう
なるんじゃんっ
チュク
っていうかデカ過ぎ
そんなの無理無理っ
入りっこないってっ
ビク
おごおっ
あああぁあっ
メリ
メリ
ゾク
ビク
トロ




ビュルルルッ♥
んひぃッあぁあぁッ
出てるぅうッ
お腹壊れるぅうぅうッ
ガク♥
ぅあぁあああぁッ
うえぇえぇえう
ううぅッ
ガク♥
ビク♥
ビク♥
ガク♥
ビク♥
ドプ♥
あっ…
あぁあッ
ドプ♥
ビク♥
まっまってッ
もう無理ッ
もう入らないッ
ビク♥
これ以上
入らないってぇえッ
破裂しちゃうからあぁッ
ビュ♥
ビュ♥
ど♥
ドプ♥
ブ
んおごぉおッ
ビュッ
…ッ
ドプ♥
…ッ
ドプ♥
…ッ


ヌ
おッ…ぁ…
ボ
ビクん
ブボん
おぁっ
あっおっ
おおッ
ビクん
ビクん
ビクん
ガクん
ガクん
んひぃっ
んっッ
ブビュん
ふにゃー
すっきり
したにゃ
パクん
ビクん
ビク
キミも
気持ち良かった
にゃ？
んにゃ？
聞こえてないにゃ？
ビクん
ゴポん
まぁお城に連れて
行くには
都合がいいにゃ
ギャー
急がないと
女王様に怒られ
ちゃうしにゃー
ギャー
ちょっとっ
押さないでっ
分かったからッ


女王様被告人を連れてきたにゃ
良く来たのう小娘…お前か妾の玩具を勝手に使って
挙句紛失してしまったという不届き者は？
ウサギから話は全て聞いたぞ
ブルンッ
玩具に鳥に猫…自ら喜んでまぐわったそうだな…
全身からそんな精液の匂いを漂わせおって…
しかも神聖な法廷で素っ裸とは…とんだビッチがいたものだ…
ちょっちょっと待ったっ誰がビッチだって⁉
私は望んでこうなったんじゃないしっ
っていうかめっちゃ嘘じゃんそれッ
ピョコ
おいッウサギ出てこいッ耳見えてんだよっ


大体そっちだって
全然人のこと
言えないじゃん！
ピク
何そのハート
どっちが
ビッチ⁉
ぶっ無礼なッ
なんという
口の利き方かッ
バッ
もうよいッ
判決ッ
お前は
有罪だッ
バッ
バッ
やってしまえ
トランプ兵ッ
バッ
はいはいっ
どうせこうなるって
分かってましたッ
もうどうにでも
したらいいじゃんっ
ガボッ
んぶっ
んぐっううっ
ズボッ
んんっ
んぶううッ
グチュ
女王様に歯向かうなど
我等が粛清してやるっ
ビクッ
ビクッ
その減らず口で
フェラして
もらおうかッ
ズチュ
ビクッ



喜べビッチッ お前の大好きな 精液だッ
ビュッ♥
んぶうぅッ
ビクッ♥
ビクッ♥
ドビュッ♥
一本じゃ 罰として甘すぎる からなぁっ
ビク♥
ズッ♥
ケツ穴も同時に ぶち犯してやるよッ
あぁッううッ やだぁッ抜いてぇッ
パンッ♥
ビク♥
ダメだねッ判決は もう出てんだ
お前が堕ちきるまで 一生終わらねえからなッ
パンッ♥
パンッ♥
ビク♥
おらッ中にも たっぷり注いでやるっ
ブビュ♥
ビュ♥
んあづぅッ


んひぃいッ
あぁあッあづいッ
おしりっ
ドプッ
やけてるうっ
やけてるよおおッ
いやぁあッ
コポ
あつ…
あぁッ…
なんだぁ尻穴は
初めてだったのか？
変態に磨きがかかって
良かったなぁ
グイ
ううう…
ひどい…っ
さいてぇ…っ
ほぉまだ軽口を
叩く元気があるのか
ガボッ
じゃあ休ませてる
場合じゃないなぁッ
ズッ
んぶぅうッ


ゴブッ
今度は喉の奥まで しっかりぶち込んで ちんぽ声しか出せなく なるまで
ズブッ
んごッ んごぉぉおッ
喉まんこオナホに してやるから 覚悟しろッ
ビクッ
ブチュッ
ビクッ
ズリッ
ビクッ
ビクッ
んぐぅうッ んんんうぅッ
キュウ
おっなんだこいつ 急に締め付けて きやがって
キュウ
ガクッ
ビクッ
便器みたいに 扱われる方が 感じるのかぁ？
なんとか言えよ おらッ
ゴッ
ゴッ
キュッ
ビクッ
んぎゅううッ んんんんぅッ
ガクッ


ビュッ
おらイクぞッ 精液で溺れ死ねッ
おっおぉッ このメスガキ 首締められて イってやがるっ
ビク
ビク
んぐうううッ んんうううッ
んごぉおおッ んんうううッ
ビク
ビク
ギュ
ギュ
ゴボ
ゴポ
んぶッ んううッ
やっと少しは 改心してきた みたいだなぁ
んぐッんぐッ ぐうううッ
ドブッ
だがまだまだ こんなもんで 終わりじゃねえぞ
ギュ
うぇッ… えッ…
ビク
ビク




無理無理
そうなったら
もう戻れねえよ
あぁあううッ
そんなぁッ
ビクン
カクン
だらしねえ
顔しやがって
とろけてんじゃ
ねえよ
ゾクン
ビクン
あぁ…っ私
ダメな女の子に
なっちゃった…っ
でっでも…
もう無理っ…
おら大好きな
ちんぽだぞ
好きなようにしろよ
カプッ
んぶっ
んんうッ
んううううッ
ズブッ
キュン
んんっ
んぐうううッ
うううっぶッ
ズブッ
キュン
んっ んぐッ
いふううッ
いぶうううッ
キュン
カクン


ドビュッ
ドビュッ
ガク
ガク
いぐッ いぐぅうッ
いっうううううッ
んおぉおおッ
おっおぉおおッ
ビク
ビク
ビク
ビク
ガク ガク
おっおっ
あっ…
ズッ
ズッ
んっんんっ
ガク
ビク
ド
んきゅうッ
はぁうッ
ドバッ
ビク


ビクン
あーあ ひでえ
こりゃもうまともな
生活は出来ねえぞ
んひっ♥
ビチャ
脳みそとろけちまったんだ
一生マン汁垂れ流しながら
生きてくしかねえなぁ
ビクン
おっ♥
ドブッ
ガクン
あっ♥
ビチャ
ガクン
ブボッ
ビチャ
やれやれ…
ようやくか…
随分と時間が
かかった…
スタ
スタ
ビクン
ビクン
ガバッ
モノじゃなッ
んひいいいいんッ
ビクン
ブビュッ
ビクン
ビクン


…まったく…
素直じゃない奴じゃ
どうせこうなるなら
最初から妾に身を委ねて
ど淫乱のメスガキになれば
良かったではないか
…まぁそう簡単に
お前の中の欲望は
抑えられんと言う事じゃ
そうじゃろう？
なぁ…？
アリス…？
アリス？
サァ…
…大丈夫？
何かうなされてた
みたいだけど？
悪い夢でも
見たのかしら
……？
……？
サァ.


バッ
はッえッ！ここどこッ!? 女王はっ？
…アリス…？まだ寝ぼけてるの？
…服もある……え？どういう事？
ペタ ペタ
あのウサギはどこ行ったのよ
…ふふ…随分不思議な夢見てたみたいね？
ちっ違うわよッあの感覚は夢なんかじゃッ
しゃべるウサギがあっちに居てっそれでっ
カー
カー
…どこの穴？
…えっと…う……
あそこの…穴に…
…あ…あれ…？
…ふふっしゃべるウサギねぇ…
ちょっちょっと笑わないでよっ



不思議の国のアリス●おわり

グリムのむすめたち



グリムのむすめたち




ザッ
ザァ…
ザァ
おおかみと赤ずきん
第一話
あ！おおかみさんこんにちわっ
ドォン…
やあ赤ずきん
今日はどこかにお出かけかい？
今日はお母さんに言われて
おばあちゃんのお家にパンを届けに行くの
ちょっと重くて大変だけど…
あっそうだオオカミさんいいものあげるっ
おっなんだい？


はいっ
お花の首飾り！
私が作ったの！
サ
本当は
おばあちゃんに
あげるつもり
だったけど
パ
！
オオカミさんに
あげる！
だからね！
私のお父さんの事…
あ…あぁ
ちゃんと他の狼にも
手伝わせるさ
ザァ
……
…じゃあ
もう行くよ
またな 赤ずきん
うん！
またね！


ガシ
…やれやれ…父親を探してって言われてもねぇ…
ガシ
…とりあえず腹が減ったな…
ここのところろくに腹に入れてなかったからな
…ん…？この匂いは…
あれは…
赤ずきんの…


首飾りもう一つ作ってたら遅くなっちゃった…
おばあちゃんに怒られちゃう…
やっと着いたっ……あれ？
おばあちゃん扉開けっ放しでどうしたんだろ…？
…おばあちゃんいますか…？
ブチ…
…なんの音…？
ブチ…
おばあちゃん…？



お…おばあ…ちゃん…?
モシャ
モシャ
ど…どうしてそんな…
グシャ
血だらけ…
ムシャ
ぐうぅッ
バッ
きッ
ガアァッ
きゃあぁぁあッ
だっ誰かっ
うっ


ビクッ
なにっ⁉
なにするのっ
ブル
グリリッ
モゾ
モゾ
グッ
いやっ痛いッ
痛いッ
グッ
ビクッ
ビクッ
やめてっ
おおかみさッ
ブチッ
いぎぃッ
あぁぁッ
ビクッ
ビクッ
ビクン
ビリ
いやぁ
あぁあッ
ビリッ
ビクッ




うっ…
ひどいよ…っ
ビクッ
ビクッ
はッ…
うえッ
うぅッ…
おおかみ…
さッ…
ガクッ
グルル…
や…っ
ガッ
やッやだぁ…
もう止めて…
オオカミさんっ
ウーッ
うっ…私の事…
分からないの…っ？


本当のオオカミさんはこんな事しないよ…
優しかったオオカミさんに戻ってよ…
お願い…
ひくっ
私の事思い出し…
ひくっ
びくっ
グガアッ
ズズッ
ゴリッ
うあッあぁぁッ
ぐりっ
ぐりっ
ゴリ
いやぁッもういやぁッ
痛いッ痛いッあぁぁッ
ゴリ
ゴッ
うッ


まッ待って
もうそれ以上
入らないよっ
グッ
さけちゃうぅッ
さけちゃうよおッ
フル
無理ッ
無理ッ
グルルッ
やめッ
あがあッ
あぁあッ


うえッ おえッ
ぐるしいッ ぐるじいッ ッあぁあッ
もういやぁッ 許してッ
おなか 破けちゃうッ
あッぁあッ
あぐぅッ


いやああ
あぁぁッ
あぁぁあああッ
ひッあッ
あッ…ッ
あぁッ
あーッ
あッ…ッ


ビシャッ
あッ
おあッ
ゴボッ
あぇッ
…はぁッ
はぁッ
なんて事
しやがるんだ
クソ狼めッ
おいッ
大丈夫かッ
しっかりしろッ
まだ死ぬんじゃ
ないぞッ
ユサッ
ユサッ
…クソッ
頼む…ッ
ピクッ
メイジー…ッ
To be continued

グリムのむすめたち



グリムのむすめたち


ぐすっ…うっ…
…どうして…
…どうして泣いてるの？何か悲しい事でもあったの？
…おばあちゃんが私の事好きになってくれないの…
今日もたくさん痛いことされて…
お母さんも…私がいるから嫌な思いするって…
……
きっと私…必要ない…の…みんな私の事…嫌いなの…
…そんな事ないよどんな事になっても
俺が君を必要とするから…
俺が君を好きになるから
…
だから泣かないでメイジー
おおかみと赤ずきん
第二話


おっ
あっ…
…
あ…
…ここは…
ザーー
ザー
…おばあちゃんのお部屋…?
良かった目が覚めたんだな
ッ!?
ビクッ
いや本当に良かったよ
最初見たときは喰われてるかと思ったからな
バッ
まったくこんな事になるとは…
チャッ
チャッ


カチャ
カチャ
あっ…の
えっと…
あなたは…？
俺の事はどうでもいい
それより体は大丈夫か？
狼に襲われてた
バ
ッ
そっそうっ
あのッ！
おおかみ
さんはッ!?
おばあ
ちゃんはっ!?
ああ
殺したよ
ッ
婆さんは
もうとっくに
息がなかったし
あのまま
狼男を殺さなきゃ
お嬢ちゃんが
犯し殺されてた
嘘だと思うなら
下で死体を
見てくるんだな
おおかみ…
さん…
ギュゥ
なんだあの狼男
知り合いだったのか？
だがああする
しかなかったんだ
不運だと思って
諦めるんだな…
ザー
ザー


それよりも…
少しは助かった事を
喜んだらどうだ？
ザー
まるで自分や
自分の祖母よりも
死んだ狼の方が
大切と見える
いっいえ…っ
…その…
そんな事は…
…助けてくれて
本当に感謝
してます…
あせ
あせ
ザー
でも…本当に…
どうしてあんな事…
…やさしい
おおかみさん
だったのに…
さあな…おおかた
血の匂いに興奮して
喰っちまったんだろう
ガタ
お嬢ちゃんを
襲ったのも同じ
理由じゃないか？
ギイ
グス
…
まぁ元気を出せ
むしろそうでなくては
困るんだ…
コツ
コツ
コツ
…え？
本当に感謝してる
なら…
ガッ


多少の礼はして
貰わないとな
ビクッ
サ
ッ!?
命を助けて
やったんだ
これくらいは
当然さ
ニヤ
ニヤ
バッ
なっ
なんで
服っ
さぁてまずは
何をしてくれるんだ?
クイッ
…あ…
う…
ガタ
ガタ
なぁ
お嬢ちゃん


ちゅ
んっ…ちゅぷっ
ちゅ
んっぷっ んっ…
ぴちゃ
ふっ ん…
ちゅぷっ
ちゅっ
…まぁ若いからな 下手なのは 大目に見てやるさ
ちゅぱ
もっと舌を うまく使え
んっ
ちゅ
ちゅ
奥まで 飲み込め
ぐっ
んっ
ちゅぱ
…そうそう いい感じだ 全体を まんべんなくな
んっ
にゅううぅ
んんんーッ


良し そろそろ 出すぞっ
ぢゅぼっ
ぢゅぼっ
びくっ
びくっ
んぶうッ んーッ んんッ
んッ ぐッ
んぐうッ
吐くんじゃ ないぞ
んぎゅッ
一滴残らず 胃の中に入れろ
んッ
うッ はぁっ…ッ
にが…っ はぁ…っ
そうだそうだ …やれば出来る じゃないか
次は腹の中に 直接だ
つぅ… …はい…
どろ
どろ



しかし相当
派手にやられてた
割には…っ
くくっ
良かったな
ズッ
これなら
すぐに終わり
そうだっ
ズッ
あっ
ぐぽっ
ずぼッ
おら出すぞっ
しっかり
受け止めなっ
パンッ
パンッ
うくっ
あうっ
くっ
ぐちゃッ
中はいい具合
じゃないかっ
あっうっ
いやぁッ


ううあぁあっ
いやあぁッ
ビュルッ
あついっ…
お腹あついがぁっ
うぁあっ
ゴボッ
ふぅ…
なかなかいい物を
持ってるじゃないか
こんな事に
ならなければいい女に
なれただろうにな
なぁメイジー
ヒクッ
ピク
……?


…どうして…
ズズズズ
…おじさん
どうして私の名前…
知ってるの…？
っく…
ふふふ…
ははは…
あーそうか…
しまったな…
折角驚かせようと
思ったのに…
…え？
なに…？
…どういう事…？
おじさん…？


いっ いたいいっ やッ
ガッ
いやっ離してっ 何するのっ!?
仕方ねえ もう少しゆっくり してたかったが
おら暴れん じゃねえ
いやッ もういやぁっ
ギッ
ギッ
おじさんはっ おじさんは 誰なのっ
んぎいいぃッ
ブチッ


いぎぃっ いやぁあっ やめてえっ お尻いたいよっ
ビクッ
こっちはまだ犯されてなかったな いい締まりだっ
まんこも悪くなかったが やはり初物じゃなきゃなぁっ
ビクッ
いやぁっ どうしてっ おじさんっ
パンッ
どうしてこんな事するのぉっ
パンッ
ビクッ
さっきみたいに良い子にしてたら 教えてやるからよっ
いだっ あああぅうっ
うるせえ 少しは静かにしなっ
ひぎぃっ
パァーンッ




おらもう一発
ぶちこむぞっ
はっ
あっうぅっ
やめてぇっ
もうやめてぇっ
腹に
力いれろッ
うえっやだっ
やだっやだっ
ゴリュ
ゴリュ
あぁあッ
あぁあッ


ズブッ
んあああっ
おっうぉっ
ブビュッ


いやぁあぁあぁあぁっ
おっうぇっあぁあっ


ふぅー…っ 久々に満足行く 相手だったぜ
あっ… うつ…
うっ… おぁっ…
確かに狼が 犯したがるのも わからなくはねえな
…さてと
多少うるさいのは 気に障ったが…
まぁいいさ
ギッ
ギシ
教えてやるよ…
カチャ


俺は約束は守る男だからな
ツ!?
ガチャッ
えっ…え?
何っそれ…⁉
何って…見たことないか?
銃だよ銃…
チャキッ
お前を殺すための道具さ
…えっ?
え…?
おじさん…
何言ってるの?
…私の事…
助けてくれたんじゃ…?
ズリ
ズリ
ああ助けたさ


お前の母親から頼まれた
お前とお前の祖母を殺す仕事を自分の手で全うするためにな
だからお前の事はなんでも知ってる
お前が殺される理由もだ
さて…何から聞きたい？
メイジー
To be continued

グリムのむすめたち



グリムのむすめたち




ザー
そんな…っ
そんな…
ザー
おおかみと赤ずきん
第三話
お母さんがそんな事するわけないっ
それにおばあちゃんだっておおかみさんが…
いいや あいつは死体を食ってただけさ
え…っ
本当はまとめて始末するつもりだったんだがな
お前ここに来るのに随分遅れただろう? だから先にババアを殺して…
探しに行くことにしたんだが… 迂闊にも入れ違いになっちまった上に…
死体によってくるやつがいるとはな
ザッ
サッ


最初は焦ったよ
お前が死んだと
思ったからな
だがちゃんと
仕事が出来そうで
安心した…
うそっうそっ…
じゃあ…っ
おおかみさんは…
おばあちゃんは…ッ
どうしてっ！
どうして
お母さんが
そんな事するの⁉
焦るなよメイジー
母親の話なら…
キッ
たっぷり
聞かせてやるさッ


…また地獄のような一日がはじまった…
うひょーっ きつまん 最高ーっ
ほらぼさっとしてないで こっちもしゃぶれよ
…くさい
…いたい
おらっ ちんぽ汁飲み干せッ
ズチュッ
びゅるっ
びゅるっ
グチッ
…にがい
おぉッいくッ 出るッ
…気持ち悪い…
ビュルッ


どうして…
んっ
グチュッ
んおッ
パチュッ
どうして
私が…
こんな目に…
…一体…
あと何人…
はっ
はぁッ
…一体…あと
何日…
くぅッ
パンッ
…こんな事を
続けて…
ふうっ
んっ
ぐッ
あぁッ
ふぅッ
ふッ
パンッ
ひっ
ぐ


ブランシェット！もう今日の相手はいないよ！
とっとと服を着な！
帰る前に買い物して来るんだよわかったね！
…いつから
いつから…おかしくなったんだろうか…


おおかみが出るん
ですって
っ
やだ怖い…
おおかみって
人を襲うんでしょ？
なんでも
東の草原でね…
そうだ…
おおかみだ…
あの日…
祖母に会いに
行ったあの日…


優しかった祖母…
私が愛していた祖母
私を愛してくれた祖母は…
おおかみによって変わり果てた姿で横たわっていた…
私は命からがらおおかみから逃げ出せたが…
生活のほとんどを祖母の農園でまかなってた私と母は路頭に迷ってしまった…


やがて食べる物にも困り始めた頃…
母は遂に
私を売り物にした
それからは毎日知らない男の人を相手に
心と体を辱められ続けた
最初はそれも仕方が無いと…
母と私の為だと思っていた…
…だけど…


…え…え…?
ズズ
へぇ噂通り かわいいねぇ
アナルなら 中出ししても いいんだろ?
ズズ
いいねぇ おじさんもう ギンギンだよ
ビクッ
えと…
ビクッ
…あの…
マ…ママっ これ…どういう…
どうもこうも 一度に相手して もらうんだよ
今日は客が 多いって言ったろ
その為に また小屋なんて 借りたんだ
流石に裏路地も 家でもこの人数は 無理だからね
借りた出費分 多く稼がないと


ズズズ
でっでも…
ふっ二人相手だって
身体が…っ
ズズ
大丈夫だよ
若いんだからさ
グイ
いっいやっ
ママッ
たすけてっ
ママッ
……
…悪いね…
ブランシェット
私達の為に…
必要なお金
なんだよ…
少しぐらいの
辛い思いは…
仕方が無い事なのさ…
だから…
しっかり
働きな
いっ
いやああっ


あーっ
もう我慢
出来ねえッ
ガッ
こっちの穴でも
構わねえっ
二本差しだっ
んぶっ
ビシャ
ぐぽッ
ビクッ
いっいやッ
無理っ二本なんて
やった事ないいっ
関係ねえっ
もう出したくて
たまんねえんだよっ
グッ
待ってっ
お願いッ
まっ
グググッ
おらあッ
ふぶうおッ


ぁぁぁ いやぁあ 抜いてッ 抜いてえッ
後でっ
ビクッ
そういう声も そそるけど お口がお留守は 良くない…
ガシッ
パンッ
ビクッ
後で相手しますすっ しますからぁッ
なあっ
ズブッ
んぶっ
ジュボッ
ははっひでえな これじゃあ 家畜か何かだぜ
ジュブッ
んっ
ガキの頃に 世話になった ヤギを思い出すな
ビクッ
パンッ
ビクッ




ビュッ
んぶうううッ
ビュッ
んっんッうッ
ビュッ
ビュッ
あーっすげえ
射精とまんねえわ
おーし
選手交代だ
俺も尻穴に
出してやる
俺もだ


うー酷い匂いだね
まったく
ビクッ
ひっ
ビクッ
ビクッ
ゴボッ
ゴボッ
うえっ
こんなんで
よくセックス出来るよ
理解出来ないね
ガクッ
ガクッ
じゃあたしは
先に帰るから
ちゃんと
体流してから
帰ってくるんだよ
ヒク
ヒク
ヒク
それにしても
ふふ…本当に
稼げる子だよ
もっともっと…
働いて貰わなきゃね…
ジョボボボボ
これからずっと…
私の為にね…


もう嫌だ…
もう…疲れた…
ズリ
ズリ
こんな人生なら
いっそ…
…東の草原…
あぁ…
私は一体…
何をやって
いるんだろうか…


せめて死ぬなら
祖母と同じ様に
とでも言うのか
だったら…
あの日…
逃げ出さなければ
よかったじゃないか…
サァ…
おおかみが来るか
どうかも
分からないのに…
ポト
ポト
く…
…ぅ…
うっうぅ…
あぁ…
ドサッ
いやだ…
このまま
死ぬなんて…
やり直したい…
人生を…
幸せに…
なりたい…
ザッ
ザッ
ザッ


ねえ…君
どうして泣いてるの？
まさか…
またしてもおおかみに…
人生を大きく変えられてしまうなど…
この時の私はまだ…
To be continued

グリムのむすめたち



グリムのむすめたち


ねぇ おばあちゃんは ひとりっきりで 寂しくないの？
ここの りんご農園は 誰か雇ってさ 私たちのお家で 住めばいいじゃない
ふふ… そりゃあ私だって 一緒に暮らしたい けどね…
でも人を雇うほど 余裕はないんだよ
それにここの 暮らしだって そんなに悪くないさ
もーっ じゃあ明日もまた 会いに来ていいよね
そしたら少しは 寂しくないでしょっ
ふふ…そうだねぇ じゃ明日は朝に ここにおいで
そうしたら ブランシェットも きっと…
ここの良さが ちょっぴり わかるはずさ…
ああ… 同じだ…


あの時と
まったく同じ
気持ちだ…
祖母が殺される
前の日に…
私がわがままを
言わなければ…
祖母はおおかみに
襲われることも
なかったんじゃ
ないかと…
……
死ぬほど後悔した
あの時と…
ザッ
ザッ
ザッ
どうか…
どうか許して…
あなたの死から
何も学べなかった
馬鹿な私を…
シャルロット
おばあちゃん――ッ


君…もしかしてー…
お腹…すいてる…?
うーん弱ったなぁ…
?
?
食べ物は今持ってないんだよ…
おおかみと赤ずきん
第四話
ro
…あ……あなた…私を…
私を…食べに来たんじゃないの…?
いっいやいやっ違うっ違う!
確かにそういう奴もいるけど…っああっいやっ ここには俺ひとりしかいないしっ
俺は…そのっ人は食べないッ絶対に食べないッ


ぐぎゅ るるるぅ
ああっ待って 違うんだっ これはそのっ
もう3日も 何にも食べて なくってっ
ぷっ
ふふふっ うっふふっ
あははは ふふふっ
…ふぅっ あーおかしい あなた変な おおかみね
ええっ？
私は ブランシェット あなた…名前は？
えっえっと…っ ペロー…って 呼ばれてたけど…
いい名前ね ねぇペロー もう少し ここにいてもいいかしら？


えっえっ⁉ もっもちろん！
なっなんなら ご飯探して 来るよっ
…ふふ 自分の分にも困ってるのに とってこれるのかしら？
あっ…あー… う…
うふふっ
それから私は毎日の様にペローに会いに行った
ペローと過ごす時間
その間だけは嫌なことを忘れられた
何とも皮肉な話だが
おおかみに壊された人生を救ってくれたのもまたおおかみだったのだ
例えこのまま母に虐げられ知らない人に犯され続ける人生でも
ペローと一緒ならそれも悪くないと本気で思っていた
少なくともまだこの時は…


へぇー
じゃあ私みたいな
人間の友達が
いたの？
ほんとペローって
狼っぽくないわねー
昔の話だけどね
もう2年ぐらい
経つかな
ちょうど
群れを抜けた
頃ね？
…ん…
そうだね…
懐かしいなぁ…
本当に…
2年じゃそんな
懐かしむことも
…あ
わかったわ
その友達女の子
だったんでしょ？
えっ？
絶対そうだわ
意外ともてるのね
ペローって
ちっ違うって！
そんなんじゃ！
嘘ついてもダメよ
じゃなきゃあんな
顔しないわ


もしかして恋人だったとか？フラれたショックで一匹狼になったの？
ニマ ニマ
だからっ違うってばっ
本当は色んな事してたんでしょ！
どうなのっエッチはしたの？教えなさいっ
ギャーッ
ちょっ痛い痛いいっ
…もー…だから…その…はぁ…
…ん……
…したこと…ないよ…そういうの…人間とも…狼とも…
！
ふーん…♥
ニーマァ♥
…じゃあ


カァ
まっ待ってっ
ブランシェットっ
いいから
まかせなさい♥
でっでも
こういうの嫌で
ここに来てるん
じゃ…
ペロー相手だったら
別に嫌じゃないわよ
くに
くに
うっあ
ビン
ビン
ビクッ
ビクッ
大体こんなに
させておいて
でももだっても
ないんじゃない?
カァァァァ
うう…
んっちゅっ
ペロ
うあぁあっ
レロ


ちょっそんな
吸ったらっ
あぁあっ
ちょっまっ♥
ブッ
ブランシェットッ
しっ舌が
入っててっ
うあっ
ぐっでッ
でるッ
んぶっ
んっんんっ♥
っぷはっ
はっ…
すごい量ねっ♥
んーっん
んっんぐっ♥
おおかみは
これが普通なの?


うふふ♥
相当気持ちよかったみたいね
ハッ
ハッ
スル
じゃあ次はもっと気持ちよくしてあげる♥
…どう？
狼のとは全然違うと思うけど…
人のでも興奮できる…？
トロ♥
ヘク♥
プニ♥
プニ♥


…ブランシェット… な…なんか… 凄くいい匂い…♥
…うふふ… 今度はここに ペローのを 入れるのよ♥
こ…ここに…？
ゴクッ♥
ほら見える？ 真ん中に穴が あるでしょ？
くぱぁ♥
とろ♥
ペローの おっきいから ちょっと心配 だけど…
どう？ 私の中に 入れてみたい？
う…うんっしたい… してみたいけど…っ ど… どうやるのか…
ふふっ それも そうねっ うーん それだったら…♥


ブブランシェット
ほんとに何も
しなくていいの?
大丈夫
全部私に
まかせなさいっ♥
いいわよペロー
そのままじっと
してて…♥
…でもこれ
本当に大きいわね…
んっ…くっ…
結構…
きつ…っ
うまく入れば
いいけど…
んん…っぐっ
うぅう…ッ
ふぅ…ッ
う…ッうッ


…ちょッ… これッ… おっきすぎ…ッ
あぁッ…ッ うッ…あぁぁぁ…ッ
あっ… あぁッ…
ううぅううんッ あッぐッうううッ うッ… お腹…あッ 壊れちゃ…ッ
…うッ…？


うっ…あっ…
はぁッ…は…っ♥
ビクッ
ビクン
ブラン…っ
シェット…ぉ…ッ♥
キュン♥
ビクッ
う…ふふ…っ
ペローったら…
んっ…ッ
私の…中っ…
そんなに
気持ちいい…っ?
じゃあ…もっと
良くしてあげる
からっ♥
ギチッ
ギチッ
ビクッ
ズリュッ
んっ…ぐ…
ほらっ…
おっぁぁ…♥
グプッ
こうすれば…っ
あがぁッ





ギュッ
んくっ
あぁっちょっ
ペローっ こっ
これ以上奥には…っ
もっもう…はっ
入らないわよっ
あぁあっ
んぐぅっ
ブランシェットぉっ
もっともっと
おくにッ
だっだめっ
本当にっ
壊れちゃうっ
おまんこっ
壊れちゃうッ
んっぐッ
ひぎっ
ズッ
んいい
いいいっ



えっあぁッ
おっごっ
なっ何これっ♥
おまんこっ
裂けそうなのにぃっ
じんじんしてっ♥
きっきもち…ッ
気持ちいいッ♥
ああっ
ペローッ凄いっ
こんなの初めてッ♥
あっあっ
ペローッそんなッ
押し付けられたらっ
ぜっぜんぶ
全部入っちゃッ
えっちがこんなにっ
気持ちいいなんてっ♥
ああぁぁ
ああッ♥


あぁあぁッ
お腹っ奥ッぐりぐり
押し上げられ
るうっ♥
ペローっ
ペローーのおちんちんで
いっぱいになってッ♥
ぐぅあッ
ブランシェットッ
またっ出るっ
出るッ
んぅうッペローっ
ペローッ出してっ
私の中にっ
初めての精液♥
私もッいくッ
いくからッ
あぁあッ
いぐッいぐッ♥


んぐぅぅうッ
いっくぅぅうんッ♥
うううっ
くぅぅうぅッ♥
あっあぁッ
出てるぅッ
中にっ♥
ペローの精液っ
でてるっ♥
あぁっ
あっあっ……♥


はぁーっ…
はぁーっ…
あぁ…精液って…
こんなに…っ
あったかいんだ…♥
お腹ぽかぽかして
気持ちいい…♥
…ペローも…
気持ちよかった…?
はぁ…っブ
ブランシェット…
凄かった…っ
頭の中真っ白に
なって…
んっ…ふふ…
よかった…♥
…でも
いくら初めてでも
無茶しすぎよ
もうちょっと
やさしく
扱いなさい
…うっ…
ご…ごめん…っ
うふふ…次に
期待してるわ♥
えっあ…♥
う…うんっ!


そう言えば ペローはどうして 群れを抜けたの？
シュル
シュル
えっ？
だってひとりじゃ 満足に食べ物も とれないんでしょ？
それなのに わざわざ抜けるって 事はよっぽどじゃない
一体何が あったのよ？
えぇっう～ん… それはちょっと…
いいじゃない！ 剥いてあげた りんご食べさせ ないわよ♥
…聞いても 嫌いに ならない？
もちろん！ 約束するわ！
……
さっき話した 人間の友達の 続きなんだけど…
その友達はとても 温厚で優しくて… なんていうか おっとりした人で 初めて会った時も 狼の俺を怖がりもしないで 家に招き入れて くれる程でさ
ちょっと 待って
狼のペローがどうやって 家…というか町に 入るのよ？


いやその人は西の方の町外れで小さなりんご農園を営んでたんだよ
結構なおばあちゃんだったけど ひとりで切り盛りしてて
……？
ドクゥ
周りに人は住んでなかったから頻繁に選びに行ったりできたんだ
でも…2年前のあの日…
いつもは陽が暮れてから会いに行くはずが…
その日は孫に会わせるから…朝に会いに来いって言われてさ…
それが最悪だった…日中に群れから抜けた俺を…
不審がった仲間が後をつけてきてたんだ
それからはもう一瞬の出来事で…
俺は目の前で友達が食べられてるのを…ただ見てる事しかできなかった…
本当にあの人には…………申し訳ない事をした…


だから群れを抜けたんだ…
もう二度と友達は失いたくないから…
…
…
…ねぇ…ペロー…
ああ…ダメ…それを…
…な…なに?
それを聞いたらダメ…
その人の…
聞かなければこのままで…
その人のね…
このままペローと…
名前は…覚えてる…?
え…名前?もちろん覚えてるよ
名前は…
ずっと…


ずっと一緒に
いられたのに
To be continued



CONTENTS

ムーグコミックス

グリムのむすめたち

2024年8月26日 初版第1刷発行（検印廃止）

著　者　ro ©2024 ro
発行人　野田　常誉
印刷所　中央精版印刷株式会社
発行元　株式会社ジーウォーク
〒153-0051　東京都目黒区上目黒1-16-8 6F
TEL.03-6452-3118　FAX.03-6452-3110
装　丁　NORA DESIGN
編　集　COMIC快艶編集部

Printed in Japan
ISBN978-4-86297-648-2　C9979

グリムのむすめたち



Cover Desgin NORA DESIGN

ISBN978-4-86297-648-2
C9979 ¥1000E
雑誌58814-44
ジーウォーク
定価 本体1000円 +税

